

地域での信頼確立に向けた取り組み [高齢]

# 地域社会における支え合い・助け合いのまちづくりをめざして

昨今、地域における社会福祉法人の存在意義が問われている中で、「安全・安心なまちづくり」「地域住民とのパートナーシップの向上」をキーワードとし、地域の社会資源としての社会貢献活動を行っている。セーフティウォッチャー活動や防犯ウォーキング活動を通して地域の安全確保を図ることで、地域住民との関係を深めている。

千葉県

社会福祉法人

千葉県福祉援護会

〒273-0047 千葉県船橋市藤原8-17-1

TEL: 047-430-7900 FAX: 047-430-3611

## ○法人設立年/昭和27年

## ○法人実施事業

- ① 経営施設数合計: 6 施設
- ② 経営施設・事業【種別毎の数】: 6 施設、24事業  
(障害者支援施設…2、特別養護老人ホーム…2、軽費老人ホームケアハウス…1、身体障害者通所授産施設…1)

## ○法人の理念・経営方針

### <基本理念>

私たちは、地域社会になくしてはならない存在でありたい

### <行動指針>

私たちの使命は地域の福祉文化に貢献することである。

ご納得いただけるサービスを提供し、ご利用者の豊かな生活の実現をめざします。

- ・ やすらぎを大切にします
- ・ 楽しいひとときを大切にします
- ・ ふれあいを大切にします
- ・ 笑顔を大切にします
- ・ 安心のある暮らしを大切にします

## ○取り組みの法人での位置づけ等

平成12年より法人内に設置している地域福祉推進委員会が作成した地域福祉推進計画(3ヵ年計画)に基づき、各施設における行動計画に位置づけ、実践する。

## ○取り組みを実施している施設の概要

### 【施設名】

ローゼンヴィラはま野

### 【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム(長期定員50名 短期定員20名 通所定員18名)

### ○活動内容

◇活動開始年:平成12年4月

◇活動の対象者:

地域住民

◇活動の頻度・時間:

- ・ 施設設備の開放・交流の場の提供  
月2回1回あたり2時間~3時間
- ・ セーフティウォッチャー活動  
月20回1回あたり30分~40分
- ・ 防犯ウォーキング活動  
月2回1回あたり30分
- ・ イベント参加・講師派遣など  
月1回1回あたり2時間~3時間

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

現在、当法人(地域福祉推進委員会)が策定した第3期目の地域福祉推進計画に基づき、各施設が地域福祉の推進に向けた活動を行っている。これまでも地域交流の推進、ボランティア活動者とのパートナーシップの向上、福祉教育ネットワークの推進等については継続して実践してきたが、平成19年からの3ヶ年計画においては、第一に社会資源機能の基盤強化を行い、より具体的な社会貢献活動を実践する事を主要課題として取り組んでいる。

## 実施内容

### ①地域清掃活動の実施

法人各施設において年4回ほどの自主的清掃活動を実施している。地域行事である「ゴミゼロ運動」に参加して、同じ地域の生活者として町の環境整備活動を行っている。

### ②施設設備(人材含む)の提供、交流の場の提供

- ・ 地元住民に対しては、5年程前に生涯学習(ほほえみ陶芸会)の一環としての陶芸から始まり、約2年の期間を設け施設職員が講師として陶芸の基本から指導を行い、現在では自立した活動が行える様になっている。施設設備の提供では、陶芸窯や陶芸備品の貸し出し、定期活動(毎月1回)の活動場所を提供している。また、ボランティア活動として、当会を講師としたサークル活動を企画し、施設利用者との交流の機会をいただいている。
- ・ 地元老人クラブの活動支援として、施設内での演芸発表やクラブの定例会にて出張の福祉講座に職員が参加し、頭の体操、介護相談などを行っている。また、前記以外の支援としては、クラブの名簿作成、演芸大会時等のプログラム作成等の事務的支援も行っている。
- ・ ローゼンヴィラ藤原内にはレストラン「デニッシュ」があり、近隣の方が気軽に花茶や食事ができる空間を提供している。また、ボランティア活動後の憩いの場所として、施設利用者、職員、近隣住民との交流の場としての役割も担っている。

### ③セーフティウォッチャー活動

千葉県教育委員会で行われているセーフティウォッチ事業への協力として、小学生の登下校時（朝7：00～7：30／夕15：30～16：00※活動職員はボランティアとして有志の職員が参加）の見守り活動を行っている。同時に「子ども110番の家」のステッカーを貼り出し、子ども達の安全確保を図っている。

### ④防犯ウォーキング活動

千葉市に「防犯ウォーキングボランティア」の登録を行い、防犯キャップを着用して、目視による巡回（デイサービス送迎時等の定期巡回する施設車両も利用し、広範囲での見守り活動も実施）及び警察や小中学校への不審者の通報を行っている。

### ⑤その他

上記以外の取り組みとして、各施設においてボランティアルーム（休憩所）を整備し、ボランティア活動マニュアル等必要書類を作成して、安心して活動が行えるようにしている。また、地域福祉の推進として地域イベントへの参加や、講習会等への講師派遣、町内会活動の支援等、福祉施設が所有する設備・知識を使った活動を行っている。

今後の活動としては、災害時の要援護者支援活動を地域防災計画に基づき、施設が持つ設備、備品、人材等を活用し、地域の高齢者・障がい者等への支援を行っていく。

### 活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

地域福祉推進委員会が発足し、地域福祉に対する意識の向上、また学校・公民館・社会福祉協議会など、地域に密接する関係機関との連携が図れるようになってきた。地域住民との関係においては、特定利用者だけの施設から誰もが利用できる施設へと変革してきている。

その様な中で、ローゼンヴィラはま野では、セーフティウォッチャー活動など更に一步踏み出した活動を始め、より地域と深い関わりを持った活動を実践している。

災害時の対策については今後の展開となるが、継続的な地域交流・貢献活動を行っていくことにより、地域住民・関連機関との関係をより深め、万が一の時に誰からも頼られる施設として法人各

施設が取り組んでいくものとしている。

### 今後の課題及び展開

当会の地域福祉推進計画も3期目になり、テーマである「地域の福祉文化への貢献と生活者の豊かで安心できる生活の実現をめざして」を掲げ、法人の計画の方向性に沿った活動を実施している。

福祉に関わる施策や事業の多くは、高齢者・障がい者・児童等対象別に体系化されているが、地域住民の生活基盤としての地域は共通のものである。誰もが安全に、安心してこのまちで暮らしていけるよう、地域の一員として地域社会とのパートナーシップを大切にして、地域の福祉文化に貢献したい。そして今後も地域のニーズを十分に把握しながら、地域住民や社会と自然な形で助け合い、支え合う関係になれるよう実践活動を積み重ねていきたい。

### 主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 10名  
（職種等：施設長 相談員 介護職員 事務職員など  
※委員会構成メンバー）

